

02 2025 Mail →
利尻町立博物館
Tel. 0163-85-1411

く見つかったという印象で、島内の方々もカメムシやアブなど、よく目にされたのではないのでしょうか。利尻初記録もあり、どんな生き物だったのかは、ぜひ展示でご確認いただければと思います。展示は以下の島内4ヶ所ではほぼ1週間ごとに移動していきますので、お近くにおいでの際にはぜひ覗いてみてください（期間はカレンダーをご参照願います）。

【第53回移動展示】博物館ニュース2024【期間・場所】①仙法志郵便局：2/21（金）～3/3（月）、②ホテル利尻（温泉入口）：3/4（火）～3/10（月）、③どんと（ホワイエ）：3/11（火）～3/17（月）、④鴛泊フェリーターミナル：3/18（火）～3/24（月）。※展示の移動は展示初日の午前中に行う予定です。



作業中です。まだまだ利尻には未知のものがたくさんあることに毎回驚かされていますが、当誌をご利用いただき、利尻の魅力をより深く知っていただくほか、ご自身のフィールドワークの成果の発表の場としても、ぜひご利用いただければ幸いです。

バックナンバーについては31号以降のものについては公式ホームページにて閲覧できるほか、それ以前の号については、博物館内にて実物、または館内のネットワーク上で閲覧が可能です。在庫が限られるものもありますが、冊子の購入もできますので、お気軽に当館までお問合せください。



冬の移動展示
21 FEB ↓ 24 MAR

冬の移動展示が始まります。博物館を中心に、2024年にどんな調査や活動が利尻島で行われたのかを、写真や、時には標本または資料などでお伝える、小さくも一番ホットな展示です。2024年度は日ごろ見慣れない生き物が多

2月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	

3月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

- 仙法志郵便局
- ホテル利尻（温泉）
- どんと（ホワイエ）
- 鴛泊フェリーターミナル

「利尻研究」44号近刊！

当館研究紀要「利尻研究」は、1982年に創刊され、これまでに43号が発行されています。掲載された報告数は457本、3500ページにも及び、利尻島や周辺地域、離島、当館資料や標本に関する未発表の知見が、多くの方々により投稿されてきました。地方のちいさな雑誌ですが、様々なデータベースにて公開され、学会誌では埋もれてしまうような地域の大切な情報をコツコツと積み上げていく役割を果たしています。最新号となる44号には、11本の報告を掲載予定で、3月発行を目指して現在

冬の開館について

冬季間も博物館は通常どおり開館しておりますが、月曜日、祝日の翌日は、夏季同様に「休館日」となります。また、悪天候などによりスタッフや来館者の皆様が安全においでいただくことが難しいと判断された場合は、予告なく「臨時休館」とさせていただきますので、ご了承願います。なお、展示室は簡易的な暖房のみですので、どうか暖かい服装でおいでください。



臨時休館かどうかはこちらのQRコードでご確認ください！



一枚の写真

由来不明・未整理所蔵資料のポジフィルムで、1966（昭和41）年撮影と記されています。スキー大会の一枚ですが、なんと当時は仙法志セパウン川を利用してゲレンデが作られていたそうです。「アジアスキー」の旗と、異様に高いアンテナが印象的な一枚です。

が読み聞かせをしたほか、懐かしい8mmフィルムの上映も行い、昔の利尻の雰囲気をも満員御礼の番屋で楽しんでいただいた一夜となりました。



番屋でnight!

学芸員実習では2名の実習生が島外からやってきたほか、利尻高校のインターンシップで小型哺乳類の仮剥製標本の作成なども行いました。限られた時間ですが、少しでも博物館の仕事に魅力を感じてもらえたのであれば幸いです。

掲示板

資料寄贈 ▼「北海道在住 滋賀縣人（1910年）」1点、8/26、堀井千津子。▼プリント写真1枚（ホッケを処理する女性）、9/4、佐藤晴美。▼「宗谷海峡月蒼く」（1960年・シングルレコード）1点、11/9、竹本勝。▼腰間切鞘1点、11/28、戸部千春。▼財布ほか計2点、11/27、益田哲夫。▼貴重な資料のご寄贈、ありがとうございました！

リシリの購読・閲覧 博物館のホームページにて、最新号のほか、過去2年分のバックナンバーを公開中。発行時に配信する「発行お知らせメール」もありますので、ご利用ください。ネット環境がない方の場合、利尻町内の方には無料でお配りしているほか、町外の方には郵送料のご負担をいただければ定期購読も可能ですので、お気軽にお問合せ願います。

編集後記 雪かきの合間に久しぶりにクモガタガガンボを発見。雪が降ったり、融けたりの変な冬で、彼らも困っているのかも・・・。(ま)

昨年もいろいろな事業を実施することができましたので、少々早いです。が駆け足で振り返ってみようと思います。

展示活動はコロナ禍以降、新しい移動展示なども追加して、博物館以外でも資料をご覧になっていただく機会を増やしてきました。5月の移動博物館「離島航路資料展」では仙法志駅関連の実物看板資料のほか、離島航路の概要を紹介し、のべ57名の方々にみていただいたほか、駅に関する

も重なり、1000人以上の方に見ていただいたほか、当館として貴重な学校資料を新たに保管することができました。

観察会や講座では、今年度あらたにオンデマンド講座を開始しました。より手軽に、また参加者のご都合にもあわせながら少人数対応の観察会などを開催するもので、今季は2グループの利用をいただきました。団体から個人へという流れも見据えて、今後も継続していければと思っています。外来種防除会では、種富湿原のオオハンゴンソウ、北麓野営場のコバノハイキンポウゲ、どちらもいろんな方々のご協力を得て、かなりその分布を狭めることができたように思います。暑い中の作業でし



外来種防除会

たが、本当にお疲れ様でした！図書室との連携事業の第二弾として「番屋でnight!」を、図書ボランティア読み聞かせグループのみなさんご協力のもと9/7に初開催。夜の展示室の番屋で、かつての杵中生が利尻の昔話からインスピレーションを得て作った創作昔話をボランティアさんら

昨年の事業について

2024

東日本海フェリー株式会社

仙法志駅
SENPOSHI

思い出などをお聞かせいただきました。例年秋に開催していた移動展示は、都合により7月の真夏の開催となり、町内小中学校の全校歌の伴奏譜と、そのエピソードを「学びやの歌」展として開催。こちらは夏の観光時期



夏の移動展示